

# 合理的非合理性と経験的知識

古賀聖人 (Masato Koga)

慶應義塾大学

知識には、正当化された真なる信念という定義が伝統的に与えられてきたが、現在ではこの定義に疑問が付されている。多くの経験的知識について、私たちはその基礎的な信念にアクセスして正当化することはないし正当化することができないが、それにも関わらずそれを知識と認めて使用している。むしろ、そのような正当化をせずとも使用することができるということが知識の特徴であるとさえ言うことができる。

また、同じ経験的知識でありながら、その代表的な例である科学的知識と知覚的知識に対して、私たちは非常に異なる態度をとっている。科学的知識は客観的で精度が高く、信頼性が高いと考えている一方で、知覚的知識は主観的な部分を含み、精度が低く、科学的知識ほどの信頼性はないと考えられている。両者の知識が、実在的世界との対応という意味で同じように真であるならば、これらの特徴づけの相違はどのようにして生じてくるのだろうか。

本発表では、第一に、知識とは使用されるものであるということ、第二に、知識を使用する人間はあくまで生物の一種であるという二つのことを出発点に、科学的知識と知覚的知識の特徴の違いがどのようにして生じるのか、そして経験的知識とはどのようなものなのかということについて考察を行う。

まず、世界について何かを知るということの世界を表象することとして捉えた上で、ドレツキ (Dretske 1981, 1986, 1988) らの因果的・情報論的見方とミリカン (Millikan 1984, 1989, 2001) らによる目的意味論の考え方から、知識の獲得をその使用目的のために世界から情報を取得することとして捉える見方を提示する。

次に、科学と知覚がともに世界に対する人間の認知活動の一形態であるという見方を提示する。ギャリーは、科学理論＝モデルという科学的表象が、特定の目的のために世界のある側面を科学者が表象するのに使用するものであると主張する。そして、このような科学的表象は、認知科学が研究するような、一般に人間が用いる表象と本性上違いがないものであると論じている。これにより、科学的知識の獲得・使用と知覚的知識の獲得・使用を、情報の取得・使用という同じ構図のもとで捉えることができることが示される。

このような情報の取得と使用を行う人間はあくまで生物である。このことは、情報の取得という認知活動において、人間が認知的資源や時間など有限の資源しか利用できないことを意味する。さらに、このことは使用目的を達成するために情報を取得する手段について人間が選択を行わなければならないことを意味している。

そこで、本発表では、経済学における合理的非合理性 (Caplan 2000, 2001, 2007) という考え方を導入することによって、科学的知識の獲得場面と知覚的知識の獲得場面の分析を行う。ヒューマー (Huemer 2010) の定式化による合理的非合理性の考え方によれば、合理性は道具的合理性 (手段－目的合理性) と認識的合理性に区別するこ

とができ、人間は道具的に合理的であるために認識的に非合理であることを選ぶ。このような考え方に基づく分析によって、科学的知識の獲得には知覚的知識の獲得と比較して多くの認識的合理性が行使されることが示され、それによって科学的知識の相対的な精度の高さが説明される。

さらに、これらの分析によって、①経験的知識とは使用目的に照らして道具的に合理的な仕方世界を粗視化するかたちで取得された情報であり、あくまで使用の成功によって維持されるプラグマティックなものであること、そして、②常にに棄却や修正の可能性に開かれていながらも伝達され使用される観衆的なものであることが示される。

#### 参考文献

- Caplan, B. (2000) Rational Irrationality: A Framework for the Neoclassical-Behavioral Debate, *Eastern Economic Journal*, 26(2), pp. 191-211.
- Caplan, B. (2001) Rational Ignorance Versus Rational Irrationality, *Kyklos*, 54(1), pp. 3-26.
- Caplan, B. (2007) *The Myth of Rational Voter: Why Democracies Choose Bad Policies*, Princeton University Press. (永峯純一・奥井克美監訳『選挙の経済学：投票者はなぜ愚策を選ぶのか』日経 BP 社 )
- Dretske, F. (1981) *Knowledge and the Flow of Information*, MIT Press.
- Dretske, F. (1986) Misrepresentation, in Bogdan, R. (ed.), *Belief*, Oxford University Press, pp. 17-36.
- Dretske, F. (1988) *Explaining Behavior: Reasons in a World of Causes*. MIT/Bradford Press. (水本正晴訳『行動を説明する：因果の世界における理由』勁草書房 )
- Huemer, M. (2010) Why People Are Irrational about Politics, available at <http://home.sprynet.com/~owl1/irrationality.htm>
- Millikan, R. G. (1984) *Language, Thought and Other Biological Categories*, MIT Press.
- Millikan, R. G. (1989) Biosemantics, *Journal of Philosophy*, 86, pp. 281-97.
- Millikan, R. G. (2001) What has Natural Information to do with Intentional Representation?, in Walsh, D. M. (ed.), *Naturalism, Evolution and Mind*, pp. 105-126.